

# 大原草紙

第83号  
令和5年4月  
春季号

## 私の大原ベストポジション



勝林院町

坂本 朋子

### 親水公園界隈

大原で暮らして三十八年、色々な経験とともに多くの方々に支えていただきました。嵯峨野に生まれ育ち何も知らない者が厳しい寒さと雪、身体に染み渡る澄んだ空気を感じ、そして慣習と助け合いを学びました。

なかでも義父が作る野菜を食べた時の感動は今でも忘れられないひとコマです。土を愛し作物に声をかけ育てる姿、それに応えるかのように本来の味、本当の味の野菜達に出会い、この大原の土地の格別さを肌で感じました。

昔は林業を生業として方も多くいらっしやったと聞きますが残念なことに今は見受けられません。私が大原に来たころは、山に松茸が豊作で色々な方々からいただき調理方法を考えたものでした。なんと贅沢な時代だったのでしょうか。変わりゆく大原、変わらない大原、いつまでも心地よい大原で

あつてほしいと願います。

私の一番の場所は親水公園から見る西の風景、大原の原風景だなあと眺めております。緑から金色に変わる田んぼ、川のせせらぎ、虫の声、四季折々の花、そして香り、風景をバックに走る子供達。一生懸命に走る姿に応援する私にも力が入りそして癒されています。

交通安全の旗を持って十六年、日に日に成長する姿は見るたびに心温かくなります。朝はまだ眠いかなとか、おかあさんにおこられたかなとか、また、夕は学校楽しかったみたい、頑張ったんだらうなあとか思いをはせております。子供達は大原の宝ものです、見守り続けていきたいと思えます。

お役を引きうけ十年余り。社会福祉協議会の役目は七十歳以上の高齢者のみならず、子育て支援、生活支援、障害者支援等多岐にわたります。高齢者だけでなく子供達をしてお父さん、お母さん世代の方々にも是非関心を持っていただきたいと思えます。今後共宜しくお願い申し上げます。

## 第4次大原10名山登山会 今年の大原10名山登山計画



第4次登山会を計画しました。第1回を1月に計画しましたが、この日は積雪で登山を延期して、雪遊びをしました。3月から次のような日程で10名山を登ります。

第1回3月21日(火・祝)金毘羅山  
第2回5月13日(土)翠黛山  
第3回9月23日(土・祝)峰床山  
第4回11月23日(木・祝)焼杉山  
みなさんご参加をお待ちしています。集合場所、集合時間、日にかの変更等はお知らせします。

■お問合せ 是恒千鶴子  
090・5128・6374

### 登山道閉鎖のお知らせ

当協会の発行した「ぐるり!大原の山」大原の里10名山登山マップや、その他市販の登山地図で案内されている「焼杉山登山ルート」のうち、古知平町、阿弥陀寺からの登山コースは先年の豪雨で土砂崩れによって登山道が崩壊したため現在通行できません。

## 高齢者の日々の課題

突然振りかかる転倒や循環器系の自分自身が発する出来事。外からの経験したことがないほどの大規模自然災害や特殊詐欺等々。そうして10人10色のイロイロなこと。いよいよ人生の第4コーナー「人は一人では生きられない」「独立するが孤立せず」このページを「高齢者の情報交換の場」にしたいと思います。皆さんと高齢者のテーマを語り合いたいと思います。投稿をお待ちしています。

### 桜の木を補植

双葉造園

さんから



里の駅から親水公園にかけての「桜井の径」は木の成長に伴い花見や新緑、紅葉時期に魅力を発揮しています。しかし、川添いの厳しい寒さのせい枯れる木も出ていました。今年立春過ぎに、上野町双葉造園の久保豊さんによって、この桜並木に補植の寄付をして頂きました。本紙が発行される頃小さな花を咲かせてくれるでしょう。

## 内なる老人会

井出町 池田定男



前号で『十年ひとむかし』なる駄文を書いた。そして、また今号でも原稿依頼をいただき恐縮している。拙い回想録であるがご容赦願いたい。

私たちが小学校に上がるときは二クラスあり、一クラス三〇名くらいの生徒数であったと記憶する。したがって、1学年六〇名の生徒が在籍していたことになる。今の大原学院と比較すべくもないが、信じられないような学生数である。

これら世代よりも更に出生が多い、所謂「団塊の世代」は一九四七年(昭和二十二年)〜一九四九年(昭和二十四年)。学年的には二十四年生まれの生徒が含まれることになる。

この世代の学生数の多さは前述したとおりだが、大原中学校から高校へと進学したときの事。ある女子高ではクラスが二十六組あると聞いた。ご想像いただきたい。私の通っていた高校でも、ここまでのクラスはなかったものの教室が足りず、緊急で間に合わせの、俄かプレハブ校舎で凌いでいた記憶がある。まあ、いずれにしても何もかも人数が多く、高校、大学の入試。そして、社会人への就職試験と大変な世代で

あった。

今後、これら「団塊の世代」或いは「戦後世代」「第一次ベビーブーム世代」の人々が七十五歳以上となる、二〇二五年(令和七年)には三五〇〇万人に達すると見込まれている。繰り返すが、改めてご想像いただきたい。数値的に将来の予測がたっても、実際ののところ私たち老人の生活はどうなるのか?もっとも気がかりになるところである。

話変わって、私を含む同級生六人が何年前から「飲み会」「同窓会」と称して「老人会」なる集いをしていく。男女三名ずつの顔合わせで、以前は年一回であったが、それが今は二回。今後、回数はさらに増えるかもしれない。欠ける者が出てきて、もうちょっと間を詰めないとい時間足りなくなるといのか、仲間内で先行きに危機感を抱き始めたからかも知れない。

こう言う「老人会」で思うのは、普段一人ひとりであっても何人かが集まり、話が交わるといいろいろな見があるということである。人間の記憶は、日々積み重なって増え続け蓄積されるばかりでなく、どんどん忘却の淵へと記憶を捨て去って生きている。歳をとって記憶力のいい人でも、昔のことは覚えていたが、最近の近いところのことは忘れ、覚えていないということがよくある。

確かにその通りで「老人会」を開いていて、例えば、誰かがあることを話し始めたとする。「そんな事、あったんかいな？」とか「それは知らなかったなあ」と各人によって記憶は異なる。しかし、複数からその当時の状況を断片的に聞くことで記憶は還ってくる。記憶がアメンバー的増殖するかのように、そのときの状況を鮮やかに蘇えらせてくれる。人間の記憶力というものに、あらためて感服させられる。

「老人会」について、もうひとつ。昔の写真。

私たちが小学校六年生の時は、なぜか卒業アルバムというものがなく、修学旅行のときの集合写真がそれに替わるものとしてあったような気がする。小学校ならばお伊勢さん、中学校なら東京方面、高校なら九州方面と学年によっていく旅先も違った。

この写真というものが、またいろいろな「イメージの回復」「復元」「想像力」「突然の発見」「閃き」「再発見」「それまでの記憶を覆す事実の発見」など、あらゆるものを生み出す起爆剤のようなものであると思う。見るひとによって、受け止め方、受け入れ方はさまざま。なにも感じないことはない。絶対に、と言ってもいいくらい身体に感じるのである。想うのである。一枚の写真を媒介にして、これほど広く、深く、多くの物事を

想像できる人間は、本当にすばらしい生物であることをあらためて感じさせる、我ら「老人会」である。

### 話せばわかる

上野町 久保齋



「民主主義ってどんなこと」と小学校の高学年の子どもたちに聞くと、「多数決で決める」「少数意見の尊重」などと、元氣よく答えてくれる。それを聞いて私は「多数決か」と考え込んでしまう。

確かに、国会など司法立法行政がある所では多数決でもいいだろう。なぜなら、多数決で決まっても、決まったことをちゃんと実行する行政機関と公務員がいるからだ。

しかし、私たちの日々関わっている集まりではそうはいかない。多数決で決めたら、必ずうまく行かなくなる。理由は実に簡単だ。私たちの身近な集まりでは、決める人とその決まったことを実行する人が同じだからだ。よほどの偉人でない限り、自分が反対したことに全力で立ち向かうことなど不可能だからだ。「民主主義ってどんなこと」と聞かれたら、大人にも子どもにも「いっぱい、いっぱい話し合っ、みんなで折り合いをつけて、みんなが楽しくやることだ」と答えてほしいと思う。

私は自分が異論をとなえることが多い人間だと思う。そして話せばわかるとも思っている。話し合いをしていると面白いことが起こる。反対意見の人の中に同感できる考えがいっぱいでくるし、賛成だった人の意見の中に違和感も現れてくる。それでそこからみんなが折り合えをつけて考えを巡らせていくというアイデアが浮かんでくるのだ。そうになると、なんだかウキウキして決まったことをみんなが楽しくやりたくなる。

大原は十分すぎるほど会議が多い。問題は参加者が固定していることだ。移住の方も少しずつ増えているし、若い人も帰ってきている。それぞれの会議に新しい人に入ってもらって異論いっぱい会議ができるといういなあと思う。

「異議に意義あり」と考えている私にとってこの頃流行りの「同調圧力」という言葉ほど嫌な言葉はない。「いじめ」と同じくらい嫌な言葉だし、同じ根をもつ行為だと思おう。

小学校の教科書にも載っていて、先生方が子どもたちによく暗唱させる詩に、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」という題の詩がある。その後が

「..鈴と、小鳥と、それから私。みんなちがって、みんないい。」と書かれていて、子どもたちはなぜだか「みんなちがって、みんな

いい」と明るく大きな声で暗唱するのです。

日本国憲法は私たちに何をも恐れずに意見を述べ、政治に参加する権利を保障しています。また、子どもたちには「子どもの権利条約」という国際法が親の保護下にあっても、子ども自身に意見の表明権があることを認め、その考えを推進することを国や大人に求めています。

私たちが大原住民として平等の権利を実現するためにこの数年、自治会の規約改定に取り組んだように、子どもたちが身近な規則や決まりについて、みんな話し合い、改善すべきは改善する取り組みを始めてくれるといいなあと考えています。

なぜなら、「自治のはしご」という言葉があつて、自治への意識は身近なところから若い時から、一歩ずつ実践して自分の足で登っていかないと一足飛びには実現しない崇高な理念だということです。

大原の子どもたちが自治精神に満ちた何をも恐れぬ明るい子どもに育つことは私たちの願いです。

最近、大原へ移住された方も少しずつ増え、里づくり協会にも女性の理事が新たに参画され、子どもたちも元氣です。得体の知れない同調圧力など吹っ飛ばし、多様な意見を持ち寄って、元氣に明るく大原生活をみんな楽しんでみましょう

## 移住者の声

大原の土地に新たな人たちが一日も早くなじみ、充実した日々を送って頂くよう、紙上を通じて交流し、大原への思いを寄せて頂きました。「移住者の交換の場」にしたいと思えます。皆さまの投稿をお待ちしています。

■連絡先・西田誠

090・4649・0633

メール：2916nishida@gmail.com

(前回の電話番号が間違っていました。お詫びいたします)

## 井出町 横山良平



大原では初夏と初秋に祭りがありますが、みなさんご存知のようにここ数年は祭りを開催できていません。祭りは同じ地域に住んでいるながら普段はあまり顔を合わせないような間柄の人たちと一堂に会してあだこうだと言いながら準備をしたり後片付けをしたりしながらコミュニケーションをとる事が出来る貴重な機会です。祭りの「場」から生み出される独特の高揚感に酔う感覚も久しく味わっておらず、早期の復活を願うばかりです。大原近隣の集落でも様々な祭りがありますが、有名などころでは八瀬の赦免地踊り、鞍馬の火祭り、花背の松上げなどに行ったことがあるという方も多いのではないのでしょうか。大原の隣の集落である静原でも祭礼や盆踊りなどがあり、私が盆踊り

に遊びに行った時は大原の盆踊りよりも多くの人が踊りに参加していたことと音響が非常に良かったことが強く印象に残っています。前記のいずれの集落にも学校がありますが静原小学校は児童生徒数の減少により令和4年4月に市原野小学校と統合し、現在は11名の児童が静原から市原野小学校へ通学しています。この統合により京都市小学校PTA連絡協議会(京都市小P連)左北支部に所属する学校は市原野、明徳、岩倉北、岩倉南、鞍馬、大原、八瀬、花背の8校となりました。その中で児童生徒数の増加する学校がある一方減少傾向の学校もあり、特に山間部の学校は存続問題が深刻です。大原は学校存続の危機を多くの方の努力により回避した過去があり、そこを起点に考えると「今後も学校を存続させるためには何が必要なのか？」ということを問い続けていく必要があると思います。先月号で戸寺町の黒田さんが仰られていたように「地域の子供が増えたらな」と私も思います。同時に、地域を超えて子供たちがつながる機会が増えたら良いな、とも思っています。その為には近隣のみならず近い状況にある地域や集落の方々と問題を共有できると良いのかもしれません。

## 戸寺町 井田久美

夫の異動に伴い上京区から大原にやってきました。それまで一度も大原を訪れたことは無く、どんなところかも分からぬまま不安な気持ちで連れて来て来たのが今からちょうど6年前で

した。生まれも育ちも地方の田舎町でしたので、自然いっぱいの中で暮らすことに抵抗はありませんでしたし、また元の生活に戻ること、前提に期間限定の大原での暮らしを楽しもうと思っていました。とは言え、生活するにあたって心配なことももちろんありました。



最初の壁は車の運転です。運転免許を取得してから一度も運転したことがない筋金入りのペーパードライバーだったので、初心者講習からはじめました。講習を数時間受け、その日のお迎えから車の運転、しばらくは送り迎えの時間が近づくこと憂鬱な気持ちになっていました。

もう一つ心配だったのは大の苦手な虫問題です。前任者からの引き継ぎメモに虫の対処法がたくさん書かれていたので、戦々恐々としていました。車の運転はなんとか克服できたものの、虫はいまだ克服には至らず、です。

子どもたちは様々な生き物を家に連れて帰ってきますが、なぜか不意に出た侵入者にはめっぽう弱く、夫不在時にそれらと戦うのはわたしの仕事となるので困ります。水の生き物も得意では無かったのですが、前述の通りこれまで川や用水路からいろいろな生き物を連れて帰ってくれました。今でも水槽に小魚が4匹とドジョウが4匹暮らしています。大原に来ていなければ我が家がドジョウをペットにすることは無かったでしょうし、わたしがドジョウを愛らしいなと眺めることも無かつ

たことでしょうか。

駐在署生活は3月で終了です。期間限定で楽しむつもりだった大原ですが、これからも住まわせていただくことになりました。外出先から大原に帰ってくるとホッとしたり、ふと窓から山を眺めたり、雪が降り積もっていく美しい景色に見惚れたり、そんな生活の積み重ねをしているうちに自然とここにいたいと思うようになりました。何よりも子どもたちが大原が大好きで、ここで成長する彼らをこれからも見たいと思う気持ちが大きいです。

大原の美しい風景がいつまでも続いていくように願いつつ、微力ながらなにか貢献できればと考えています。

## J A跡地オープン記念懇親会

■四月二十二日(土)

十四時〜十七時まで

■講演・大原のオオムラサキ保護活動の歩み

■懇親会・立食パーティーとコーラス

是非ご参加ください。

会費は無料です。

また、跡地利用についてご意見をお聞かせください。

## オオムラサキ関連展示

■四月十七日から二十二日まで

■十一時〜十六時まで

同館二階で行っています。

準備会代表 山下勉

090・7102・1126

# いま 京都大原学院で

令和4年度の京都大原学院の各種行事は感染対策を施しながら行われました。開催規模を縮小したり、日程の変更や、参加者数の制限など、まだまだ影響がありました。

令和5年度は以前の教育活動に戻し、各種行事で多くの皆さんをお呼びし、子どもたちの活動を見守っていただきたいと思います。

## 令和5年度 京都大原学院行事予定

- 4月6日(木) 着任式・始業式
- 7日(金) 入学式
- 18日(火) 全国学力・学習状況調査(6・9年)
- 21日(金) 授業参観
- 5月10日(水) 9年生修学旅行
- 6月3日(土) 運動会
- ※雨天延期7日(水)
- 5日(月) 代休日
- 26日(月) 30日(金) 生き方探究チャレンジ体験(8年)
- 28日(水) 30日(金) 大原探究(6年)
- 7月20日(木) 1学期終業式
- 8月24日(木) 2学期始業式
- 29日(火) 31日(木) 若狭宿泊学習(3・4・7・8年)
- 9月13日(水) 15日(金) 三千院宿泊学習(5年)
- 23日(土) 休日参観・災害時引渡訓練
- 26日(月) 代休日
- 10月13日(金) 文化祭
- 11月2日(木) 大原提言発表会
- 8日(水) 収穫祭
- 17日(金) 研究報告会
- 20日(月) 21日(火) 発見旅行(6年)
- 12月12日(火) 全校マラソン
- 22日(金) 2学期終業式
- 1月5日(金) 3学期始業式
- 3月15日(金) 卒業式
- 3月19日(火) 修了式



## 大原の道標 その三

大原古文書研究会  
上田 壽一



各町の辻などに建っている石造りの道標を調べてみた。長い風雪で判読不明のものもあるが、よく目にするものから調べてみた。

明治四十二年十月

山 端

奥田久兵衛

右へ

魚 山

大原御幸

古 蹟

寂光院

花尻橋の北、大原の入口にある高さ二メートル程の石標。

山端の奥田久兵衛、今も山端に子孫の方が住んで居られるが、奥田久兵衛は当時、造り酒屋で山形屋(山久)と呼ばれ、大地主でもあったようだ。叡山の名水、鶴ヶ谷の水を使い「うが谷」と呼ばれる酒を醸造していた。後に政治にかかわった様で、「風雲京都史」(404)に次の記述があった。

井出町 宮川橋畔  
明治四十二年十月  
右 奥田久兵衛  
右 寂光院 道  
傍らの小さい石碑は建立者は不明  
右 志やつこういん  
左 くらまみち  
草生町 乙が森畔  
明治四十二年十月  
左 奥田久兵衛  
左 寂光院



(前略) また奥田久兵衛は一乗寺の音羽山より白川石を採取している区有財産管理者二股茂平が、大正五年に石材採取願いを知事に提出した際、同山が過採のためハゲ山となり京の風致を損ずるとして不許可の模様なのを察知、寺崎に贈賄して取り計らってもらった。土木課長の寺崎は、ほかに長瀬伝三郎(五二)―烏丸下立売下ル・染料商―と結託し、高野川沿岸埋め立て地払い下げに関しても、便宜をはかったと、予審では糾明されている。  
奥田久兵衛が建てた石碑は他に二ツ見つかっている。一つは井出の宮川橋近く。もう一つは草生町乙が森近くである。



### 大原移住希望の町田です

■投稿者：町田恭子



はじめまして。私たちは5人家族です。東日本大地震を機に京都に移住し10年が経ちました。故郷の自然を求めるように、大原の空気が豊かな大地に心惹かれ続けています。

夫は写真業、私は菓子製造、3人の子は11歳(小6)、6歳(小1)、1歳。私は東北育ちなので、寒さや雪には慣れているつもりです。子たちも自然豊かな場所で育ってほしいと願っています。この地で暮らすことができたらとても幸せです。

■町田さん連絡先

090・8963・7416

《編集部から》お心当たりの方ご協力をよろしくお願致します。

### 令和生まれの仲間の輪をつくります



■投稿者..

大原れいわっ子の会

2月12日龍池小学校大原学舎にて、大原在住の令和生まれの親子でプチ交流会を開催しました。

情報交換をしたり、一緒に遊んでいろんな経験をしたりして、共に成長していきたいら素敵だなあと、今回は11月に開催された移住者交流会で連絡先を交換したメンバーを中心に集まりました。

お天気も良く、子供達は元気いっぱい仲良く遊び、ママ達は子育てや地域のことなど色々話すことができ、とても楽しいひとときとなりました。

連絡先は知らないものの、同世代の子供たちがまだまだいるという話も出たので、呼びかけあって輪を広げていければと思っています。

開催にあたり、場所の相談や昼食など田家会長を中心に協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。

次回は4月8日(土)にお花見を予定しています。参加を希望される方は左記へご連絡ください。

■集いの広場

ぴーちくぱーちく

075・201・6387

■主催：大原れいわっ子の会

### コーヒースタンド OPEN します!

■投稿者：中村聖子



大原の祖父母の家が空き家になり夫婦で越してきて20年が経ちました。以前は夫婦で飲食店をしてましたが5歳の娘が大原の保育園にお世話になりこれからはゆっくり子育てしながら大原で自分ができる事はないかと考えるようになり、この春、大原のバス停から三千院に向かう道沿いにテイクアウトコーヒーのお店をオープンすることにしました。お店の名前は私の名前の一字をとり「ひじり」です。大原の皆様美味しいコーヒーを飲んでいただけるよう頑張ります!どうぞ、よろしくお願致します。



れんさいマンガ  
\* 82 \*  
アズマツネオ



### 表紙の横顔

《編集部から》

坂本明子さんのプロフィール

大原学区社会福祉協議会会長、京都中央農協副組合長の役職に就く。傍から見ても忙しい人。今回の原稿、少し字数が足りないのでアポ電を入れて数時間後訪問すると不足分の原稿が用意されていた。思わず「急ぎの用事は忙しい人に頼め」と言ったら「以前あなたのお兄さん(故晴彦)からも同じ事言われた」屈託なく応えられた。